

# 令和2年度 学 校 評 価 報 告

草加市立新栄中学校  
(令和3年1月29日作成)

<b>1 学校教育目標</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学ぶ生徒</li> <li>・思いやりのある生徒</li> <li>・健康でたくましい生徒</li> <li>・正しい行動のできる生徒</li> </ul> <p>目指す学校像：「笑顔で元気に学び鍛える新栄中学区の子」</p>	
<b>2 重点目標・努力目標</b>	<b>3 前年度の成果と課題</b>
学力向上と自己肯定感の育成 ・埼玉県学力学習状況調査の国語・数学・英語における学力の伸び率3以上を目指す。 ・全教育活動をとおして自己肯定感を育成し学校生活満足度90%以上を目指す。	成果 ○保護者のアンケートは全体の達成率が82.5%で前年度より1.5%上昇した。 課題 ●保護者のアンケート結果より「家庭学習をよくしている」が58%、「学校は子どもに学力をつけている」が65%であった。

<b>4 評価表</b> ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営目標、方針</li> <li>・校務分掌組織</li> <li>・適所への適材配置</li> <li>・職員会議等の運営</li> <li>・予算の執行・決算、監査等</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○重点目標具体策を示し、全教職員が共通理解のもと具現化に向けて協働できた。</li> <li>○職員会議資料を電子化させ、滑らかな会の進行と働き方改革の推進が行えた。</li> <li>○分掌では、OJTにより若手教員が向上した。</li> </ul>
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究組織、計画、実施</li> <li>・校内研修の推進</li> <li>・授業改善への取組</li> <li>・校外研修会への参加</li> <li>・人材育成</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内研修は実施可能な範囲で行えた。郊外は、Zoom等を利用して参加できた。</li> <li>○新学習指導要領実施のための学習評価について研修を行い、次年度に備えることができた。</li> <li>●コロナ禍のため、資料提示で終わった校外研修もあり、十分に校内理解が取れなかった。</li> </ul>
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健計画、安全計画</li> <li>・環境衛生の管理</li> <li>・健康観察、安全点検</li> <li>・緊急事態発生時の対応</li> <li>・危機管理マニュアルの作成・活用</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年3回の避難訓練を実施し、安全に対する意識を向上させた。</li> <li>○コロナ禍における保健指導において、管理職と養護教諭の連携を密にし、教員・生徒・保護者へズレの無い発信が行えた。</li> <li>○迅速な修繕処理が行えた。</li> </ul>
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の管理、保護</li> <li>・施設設備の管理と有効利用</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個人情報持ち出し簿を用いて管理されている。</li> <li>○校内パソコン・校支援システムの活用、情報の漏洩防止等で情報管理は徹底された。</li> <li>○市の施設課と連携して学校施設の修繕を進めた。</li> </ul>
	⑤地域との連携開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校情報の発信</li> <li>・学校公開の実施</li> <li>・学校運営協議会の推進</li> <li>・地域、校種間連携</li> <li>・PTA活動の活性化</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校情報の発信は、学校だより・学校メール・ホームページ掲載等で情報発信した。</li> <li>○学校運営協議会を年4回、幼保小中連携は担当者会議を年3回、連絡協議会を年2回実施、乗り入れ授業や授業交流等を行うことができた。</li> </ul>
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す子ども像の共有</li> <li>・15年間を通じたカリキュラムの編成</li> <li>・一貫教育推進のための組織づくり</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭学習や親子読書デー等、中学校区での一貫教育を行った。</li> <li>○管理職をはじめ教務主任と「学び」「鍛える」「元気」「笑顔」の4部長・副部長からなる研究推進委員会を中心とした組織体制を継続している。</li> </ul>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>15年間を通じたカリキュラムの編成、実施</li> <li>教育計画の作成</li> <li>教育活動の評価</li> <li>目標、方針の周知</li> <li>授業時数の配当、確保</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業時数の確保を行うことで、無理なく順調に各教科の指導内容を全て終了することができた。</li> <li>●15年間を通じたカリキュラムの編成については、今後も幼保小中連携を深める中で丁寧に構築していく必要がある。</li> </ul>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>外部人材の活用</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒アンケートから「授業はよくわかる」90%、「わかりやすく教えてくれる」92%であった。</li> <li>○観点別学習状況の評価の観点ごとの総括及び評定への総括の考え方や方法について共通理解が図れた。</li> <li>●保護者アンケートから「基礎的な学力をつけて欲しい」が75%であり、今後の課題である。</li> </ul>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の作成</li> <li>各教科との関連</li> <li>道徳的実践力の育成</li> <li>家庭、地域社会との連携</li> <li>いのちの教育の推進</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者アンケートより、学校教育目標である「正しい行動のできる生徒」「思いやりのある生徒」とともに94%であった。</li> <li>○いのちを大切に考える学習等行い、地域・家庭との連携が行えた。</li> <li>○指導計画や授業内容、評価方法等について学年内統一を進めた。</li> </ul>
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>学級活動、学級経営</li> <li>学校行事</li> <li>生徒会活動</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者・生徒アンケートより「子どもは楽しく学校へ行っている」91%、「学校は楽しい」90%であった。</li> <li>○生徒会と専門委員会の連携体制が充実した。</li> <li>●コロナ禍により延期や中止した行事が多くあり、実施の判断が困難であった。</li> </ul>
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価の工夫</li> <li>地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体験活動が縮小してしまったため、調べ学習や講演会（インタビュー）がメインとなったが、組織的に実践できた。</li> <li>●指導内容を今後さらに充実させる。</li> </ul>
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な生徒指導</li> <li>問題行動への対処</li> <li>教育相談、生徒理解</li> <li>いじめ防止対策</li> <li>保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者・生徒アンケートより「生徒はルールや約束を守って生活している」94%、「決まりを守って生活している」92%であった。</li> <li>○生徒指導・教育相談部会は週1回、いじめ防止対策委員会は月1回行い、教育相談アンケートは年5回、教育相談週間は2回行えた。</li> <li>●不登校生徒への積極的かつ組織的な対応が必要である。</li> </ul>
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的なキャリア教育</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>啓発的経験の充実</li> <li>進路情報の収集・活用</li> <li>職場体験活動</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進路指導主事と中心に、校支援システムに関わる通知表・要録等の記載内容の全校統一やキャリアパスポートの整備、コロナ禍のため変更された進路情報のタイムリーな発信と学校体制を整えることができた。</li> </ul>
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画、支援計画</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>通常学級との交流</li> <li>諸機関との連携</li> <li>校内支援体制の整備</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全校的な協力体制のもと、一人ひとりの生徒の成長が見守られていた。特に感染症対策を丁寧に言い、交流学級や支援籍も行うことができた。</li> </ul>
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画、支援計画の作成</li> <li>図書館補助員の活用</li> <li>諸機関との連携</li> <li>図書館の整備</li> <li>図書館利用の工夫</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校司書と図書館教育担当を中心に、図書室の整備と開室日のアナウンスを定期的に行っている。また「コラボ給食」では、食育と連携して物語に登場する料理を学校給食の献立に反映させ、本の貸し出し数が2倍以上となった。</li> </ul>
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育計画の作成</li> <li>校内研修の充実</li> <li>ICT機器の積極的な活用</li> <li>情報モラル教育の推進</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT機器を活用した授業が昨年度よりも増加している。Eアドバンスの整備やZoomを利用した会議や校支援システムの活用も行った。</li> <li>●校支援システムの完全活用までは、時間と教員の活用回数が必要となる。</li> </ul>
	⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の策定</li> <li>各教科との関連</li> <li>人権感覚の育成</li> <li>校内研修の充実</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権教育担当を中心に、全校で人権標語や作文等実施した。</li> <li>○コロナ感染者に対する偏見についての指導・啓発・掲示等を行った。</li> </ul>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	勉強の新栄中	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種学習状況調査</li> <li>家庭学習の定着</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○五教科の基礎学力テストや昼休みを活用した再テストの実施、全校での家庭学習ノートの点検等を行い、学力下位の生徒に学力の向上が見られた。</li> <li>●主体的な学習への取組が課題である。</li> </ul>
	挨拶の新栄中	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶運動</li> <li>専門委員会の活動</li> <li>校内の様子</li> <li>地域からの評価</li> </ul>	A	○挨拶運動は、校長をはじめ生徒指導部が中心となり、毎朝行われている。定期的に全職員での登校指導と生活委員の挨拶運動も行った。廊下では、必ず挨拶をする生徒の姿が見られ、来校者や地域の方からお褒めの言葉を頂いた。学校関係者評価でも、朝早くから登校する生徒が多く、挨拶を交わす姿が見られると記載された。
	活力の新栄中	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校、家庭、地域の連携</li> <li>「繋がる食育事業」</li> </ul>	A	○「食に関する掲示物の工夫」や「各学年・教科と連携した教育課程への位置づけ」等、生徒の食に関する興味関心が高まった。また「コラボ給食」では、読書をさらに推進し、図書室利用数を伸ばした。「学校給食について共通理解を図る校内研修」や「免疫力アップUP朝食募集」、「YouTube動画制作」等、校内組織の活用や市教育委員会からも支援を頂き学校職員と保護者をはじめ、地域や草加市全体へ「開かれた学校給食」を発信した。こうした結果が、生徒達の笑顔と毎朝の元気な姿に活力として表れている。

## 5 総合評価（学校関係者評価を含む）

全体的に明るく素直で礼儀正しい生徒が多い。朝部活の開始時間を並んで待つ姿、無音の時間となる朝読書、落ち着いた授業態度、昼休み時間の外遊び、学校行事の盛り上がり、清掃活動時の直向きな姿等、日に日に生徒の成長を感じることができる素晴らしい空間である。教職員は職務に集中し、子供たちのために日々努力している。その姿勢が評価され、学校関係者評価には、「学校が良くなったと地域でも評判になっている」とお褒めの言葉を頂いた。埼玉県学力学習状況調査分析の結果、学年が上がるにつれてどのレベルの生徒も学力の伸びが見られたが、規律ある態度での整理整頓が県平均を3.1%下回ってしまったことについては今後の課題である。また、昨年度課題である不登校生徒への対応については、管理職をはじめとした教育相談部会やSSW、SC、相談員と当該生徒の担任との連携を強化し対応してきた。その結果、各家庭・生徒に応じた対応と透明感のある関係が得られた。生徒指導部会、教育相談部会、いじめ防止対策委員会での情報共有や対策検討も綿密に行えた。今後も継続して進めていく課題である。今年度はコロナ禍で体力向上へ力が注ぎづらい状況が続いている。そんな中、生徒たちは駅伝大会入賞や部活動の全国大会出場等、優秀な成績をおさめている。このような状況に負けず、学力向上と基本的な生活習慣に視点を向けて、学校・地域・家庭と一体になって教育活動を行っていく。

## 6 次年度の改善策

不登校生徒の解消については、昨年度同様大きな課題である。今年度の取り組みを継続して、さらに校内研修等で共通理解を行い、組織的に共通行動できるように体制を整えていくことが必要である。また、学校運営協議会等の地域との連携、外部機関との連携を通して学校・地域・家庭が一体となって子どもたちの良き理解者となれるような組織を目指していくことが求められる。

学力向上には、教員の力・生徒の力・家庭の力が必要である。教員の授業力向上と資質能力の向上は言うまでもないが、家庭の教育力向上を図り連携しながら、生徒の潜在能力を引き出ししていくことが大切であると考え。保護者会や三者面談、学校だより、学年だより、学級だより、進路だより等、積極的に家庭と関わっていくことが大切である。また、各種講演会や学校行事、公開授業や部活動見学等を利用して、保護者へその発信していくことで理解が得られるように、開かれた学校づくりを行うことが大切である。

団塊の世代との世代交代が行われ、経験の少ない若手教員が増えてきた。各分掌にも経験値の差からくる不手際が見られている。そこで管理職のリスクマネジメントが求められている。OJTの活用と校内研修での共通理解、そして未来を担う子供たちのために、未来をつくる若手教員を励まして、たくましく成長させることが大切であると考え。

